

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	夢門塾ゆうゆう相生		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	75	(回答者数) 44
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所は、子ども一人ひとりの特性理解に基づいた専門的支援ができていく点が大きな強みです。保護者評価においても「子どもを十分理解した支援が行われている」という高評価が多く、個別支援計画の内容と実際の支援が一致していることが信頼につながっています。	職員間での打合せ・振り返り・カンファレンスを通じ、チーム支援体制を構築しています。計画や記録をファイリングし、誰でも確認できる仕組みづくりを行っています。	職員研修を継続し、専門性のさらなる向上を図ります。特に支援引き出しの増加やアセスメント力の強化を目指します。
2	保護者との信頼関係が構築されており、日常的な情報共有や相談対応が丁寧に行われています。送迎時やモニタリングを通じて子どもの様子を伝え合い、共通理解を持ちながら支援を進められている点が評価されています。	活動プログラムが固定化しないよう工夫し、外出活動や行事、合同運動会など子どもが「楽しい」「また行きたい」と思える機会づくりを意識しています。保護者からも好評を得ています。	保護者参加型行事（運動会・参観機会）を継続・拡充し、事業所理解と信頼関係をより深めていきます。
3	環境整備や安全管理への意識が高く、清潔で構造化された環境づくり、各種マニュアル整備、避難訓練などが適切に行われています。安心して通所できる環境づくりが満足度の高さにつながっています。	視覚支援や環境調整、個別スペースの確保など、子どもの特性に応じた柔軟な環境調整を行っています。安心して過ごせる環境づくりを重視しています。	関係機関との連携や情報共有体制をさらに強化し、多面的な支援体制を整えていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常勤職員との情報共有にタイムラグが生じることがあり、支援内容の共有に課題が見られます。	非常勤職員の勤務時間帯や送迎業務により、全員での共有時間確保が難しい状況があります。	共有ツールや伝達ルールを整備し、非常勤職員も含めた情報共有の徹底を図ります。
2	地域交流や他児童との交流機会が十分とは言えず、機会づくりが難しい現状があります。	地域交流は時間帯や環境的制約があり、現実的に機会設定が難しい面があります。	無理のない範囲で地域イベント参加や交流機会を模索していきます。
3	家族支援プログラムや保護者同士の交流機会が限定的であり、ニーズに対して十分に答えきれていない面があります。	保護者支援は個別対応中心となり、体系的なプログラム提供が難しい状況があります。	保護者会や参観機会を活用し、家族支援の質と機会を拡充していきます。